

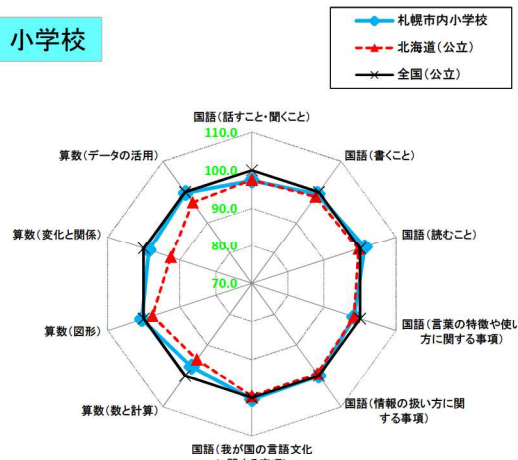
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

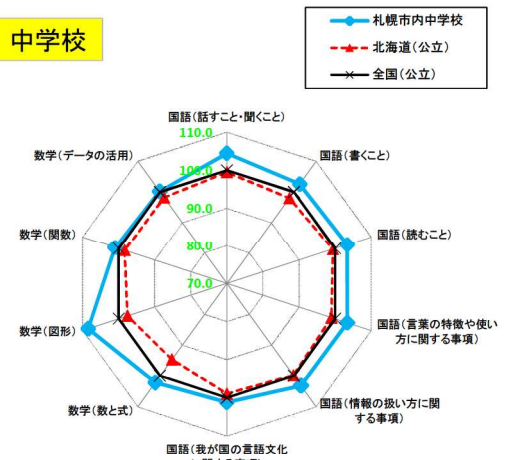
平均正答率(%)	小学校	中学校
国語	67(67.2)	60(59.9)
算数・数学	63(62.5)	54(53.7)

()内は、札幌市が独自に計算した値

小学校

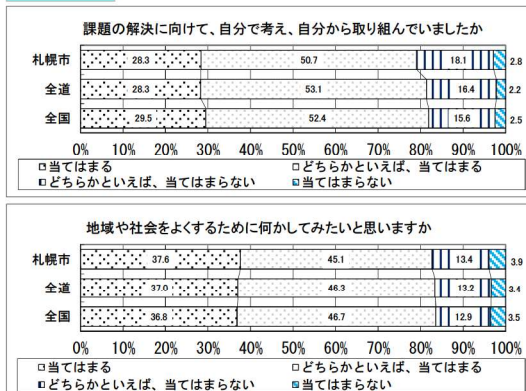


中学校

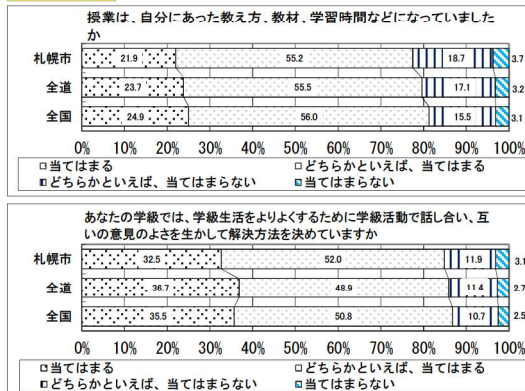


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

【教科】
 ◇国語では、「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること」に役立つことに気付くこと」に成果が見られ、札幌らしい特色のある学校教育の、学びの基盤となる「読書」に関わる取組により、読書の有用性に気付くことができていますと考えられる。
 ◆国語では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについて、全国と同様に低い正答率であったため、聞き手がもつ興味・関心や情報量を予想して資料の優先順位等を検討したり、聞き手の反応に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫したりする学習活動の充実を図る必要がある。
 ◆算数では、速さの意味について理解していることについて、全国と同様に低い正答率であったため、道のりと時間の関係に着目し、求めた速さの妥当性を検討する活動の充実を図る必要がある。

【質問調査】
 ◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童の割合は、前回調査より上昇しており、AARサイクルの視点で授業改善を図り、子ども一人一人の主体性を大切に多様な学びを推進してきた成果が表れてきている。
 ◇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合は、前回調査より上昇しており、集団づくりや社会のためによりよい方法を、子どもが考えることを大切に「さっぽろっ子自治的な活動」を推進してきた成果が表れてきている。

中学校

【教科】
 ◇国語では、全ての事項・領域において、全国の平均正答率と比較して、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」状況にある。
 ◇数学では、「図形」の領域において、全国の平均正答率と比較して、「上回っている」。その他の領域では、全国の平均正答率と比較して、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」状況にある。
 ◆国語では、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することについて、全国と同様に低い正答率であったため、図表と文章との関連を確認するなどして、書き手の伝えたい内容を正確に読み取る活動の充実を図る必要がある。
 ◆数学では、複数の集団のデータ分布から、四分位範囲を比較することについて、全国と同様に低い正答率であったため、諸問題について、解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の学習活動の充実を図る必要がある。

【質問調査】
 ◇授業が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思う生徒の割合は、前回調査より大きく上昇しており、AARサイクルの視点で授業改善を図り、子ども一人一人の主体性を大切に多様な学びを推進してきた成果が表れてきている。
 ◇学級で、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている生徒の割合は、前回調査より大きく上昇しており、集団づくりや社会のためによりよい方法を、子どもが考えることを大切に「さっぽろっ子自治的な活動」を推進してきた成果が表れてきている。

【札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた取組】

【Webページ】

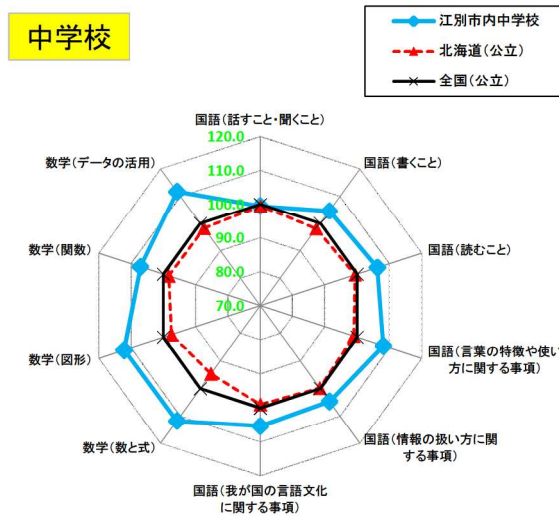
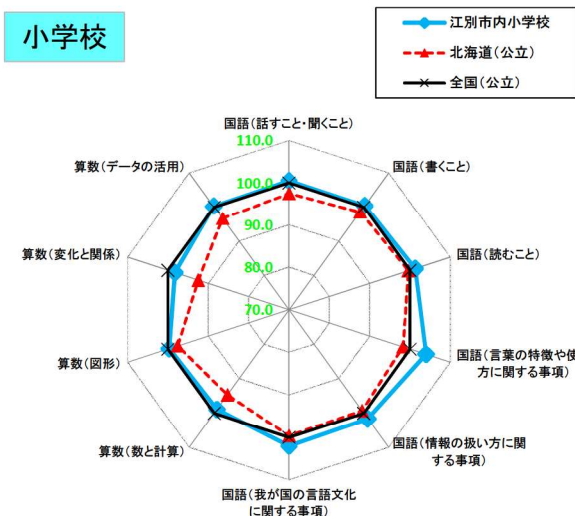
- ◎ 引き続き、「課題探究的な学習」と「自治的な活動」を二本柱として、さっぽろっ子に育みたい資質・能力である「学ぶ力～自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力～」の育成を図っていく。
- ◎ 「子ども一人一人の主体性を大切に多様な学び」の実現に向け、「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」をコンセプトにAARサイクルの視点で単元を構成し、課題探究的な学習を推進していく。
- ◎ AARサイクルの視点での授業改善については、具体の実践例を基にして、各種研修会や研究協議会等で発信し共通理解を図る。その際に、教師の役割の重要性について再確認する。



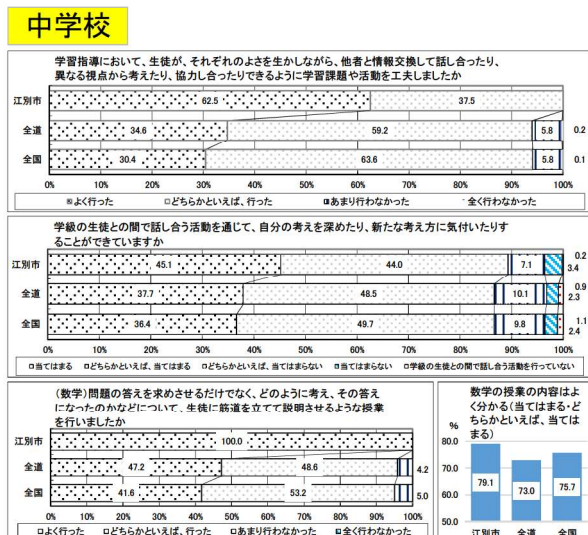
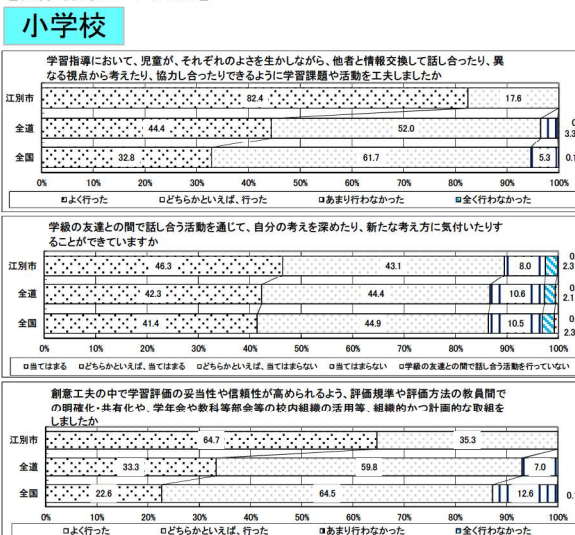
■江別市内の状況及び学力向上策（小学校数：17校、児童数：905人）（中学校数：8校、生徒数：799人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問調査の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしなが、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行ったことにより、国語の全ての領域と事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしなが、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【江別市の学力向上策】

- ◎ 各小・中学校における確かな学力の育成に向けた学習サポート教員及び学習ボランティア等、専門スタッフの配置促進
- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るICTの効果的な活用
- ◎ 学校・家庭・地域で「目指す子ども像」の共有を図り、系統性と一貫性をもった小中一貫教育の推進

【Webページ】



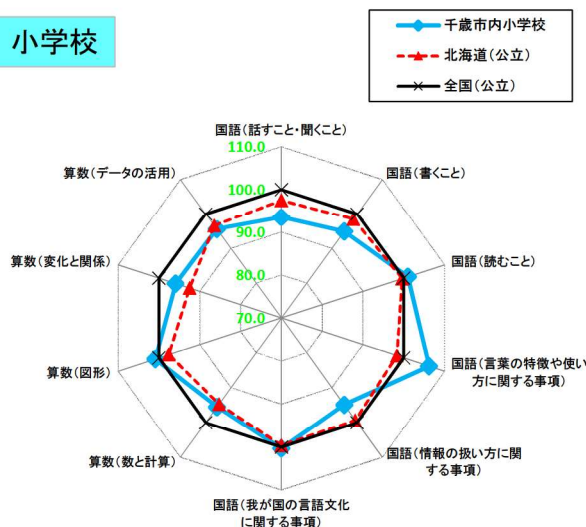
■千歳市内の状況及び学力向上策（小学校数:16校、児童数:790人）（中学校数:8校、生徒数:762人）

【教科全体の状況】

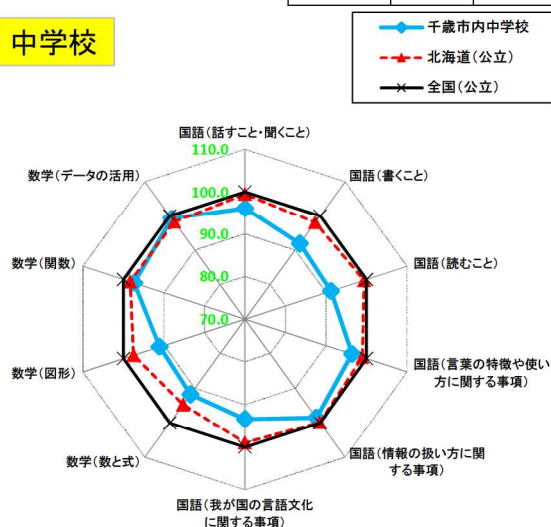
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67.0	55.0
算数・数学	62.0	50.0

小学校

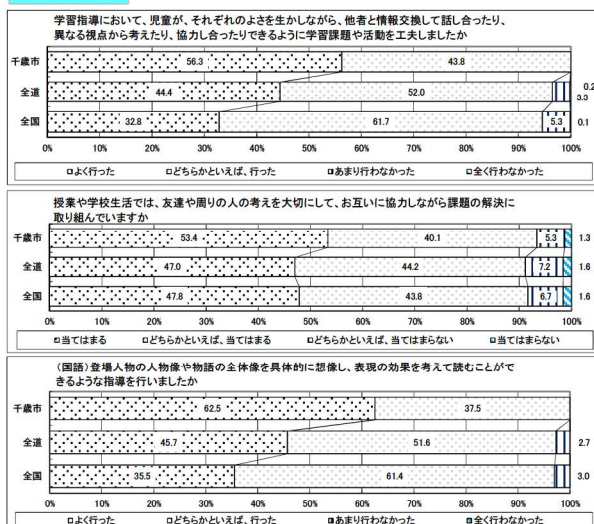


中学校

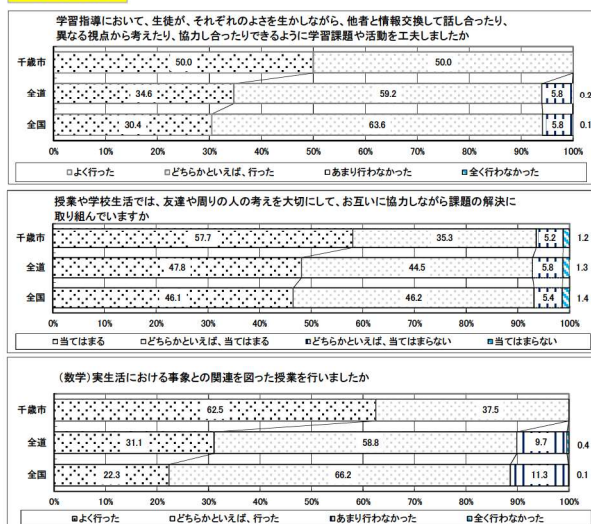


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしなが
 ら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしなが
 ら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【千歳市の学力向上策】

- ◎ 授業改革による、読解力・記述力の向上～「探究型・対話型」授業の推進とICT活用の充実～の徹底と検証
- ◎ 「習得・反復型」の学びを効果的に取り入れた、学習支援員等による算数・数学科の習熟度別少人数指導の推進
- ◎ 授業や家庭学習におけるICTの効果的な活用（研修および、デジタルAIドリルや交流支援ソフト等の環境整備）

【Webページ】

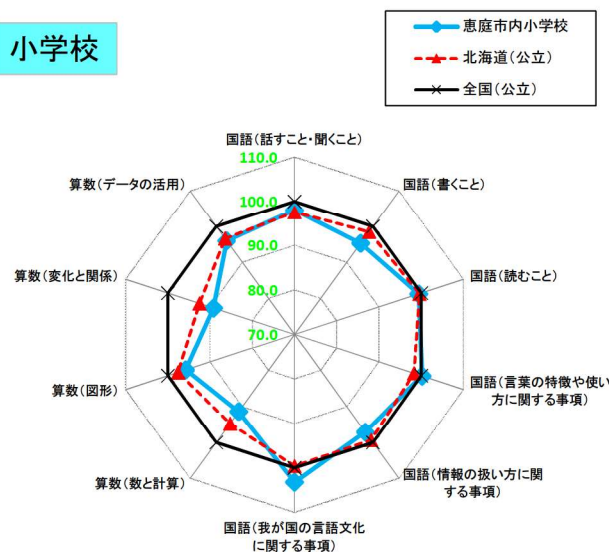


■ 恵庭市内の状況及び学力向上策（小学校数：8校、児童数：551人）（中学校数：5校、生徒数：568人）

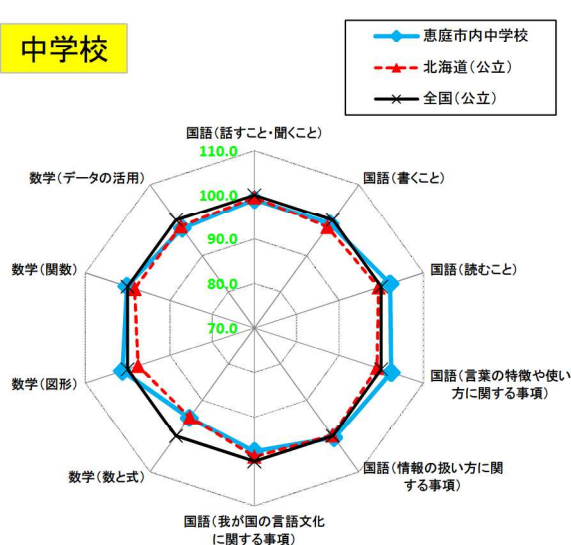
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

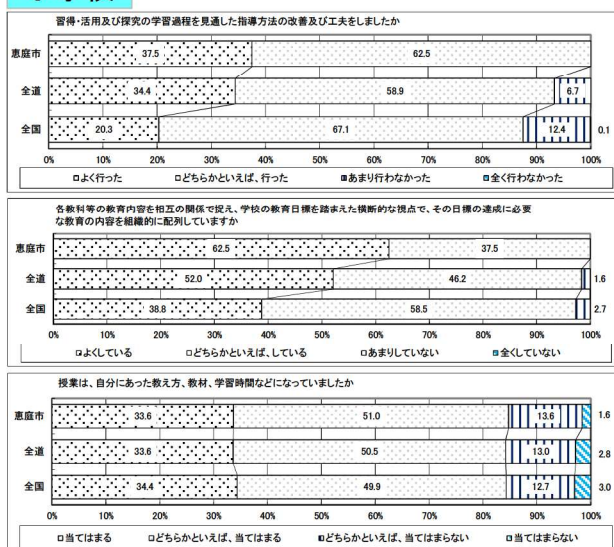


中学校

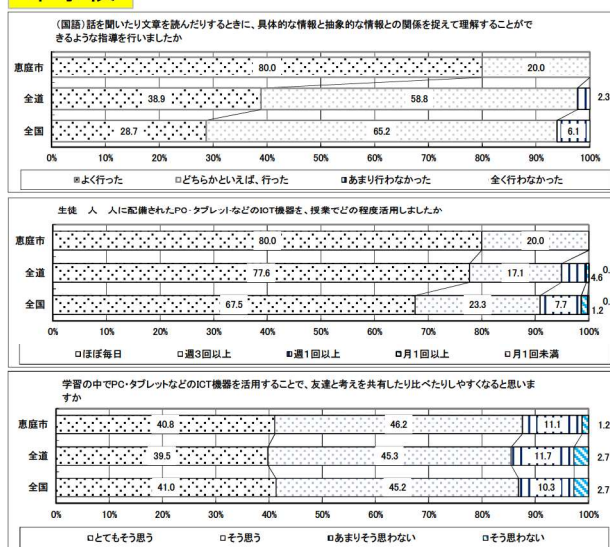


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に
関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、生徒の理解が深まり、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」、「情報の扱い方に
関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でよく活用したことにより、ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなったと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【恵庭市の学力向上策】

- ◎ ICT等を効果的に活用した学習指導の充実
- ◎ 教職員の資質向上に向けた、サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの研修の実施
- ◎ 小・中学校の連携教育の充実に向けた、小中連携教育推進委員会の設置

【Webページ】

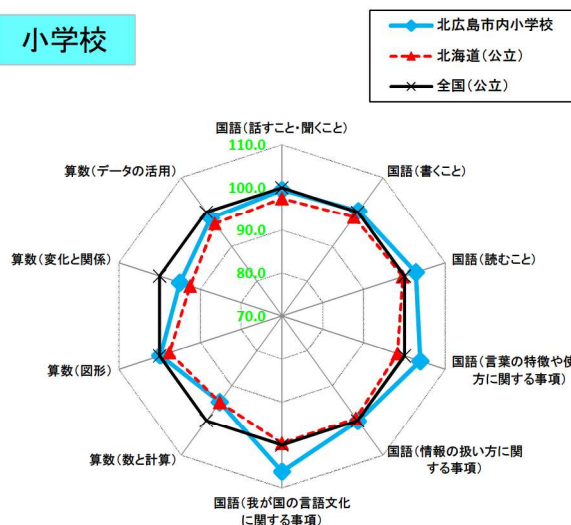


■北広島市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：432人）（中学校数：6校、生徒数：456人）

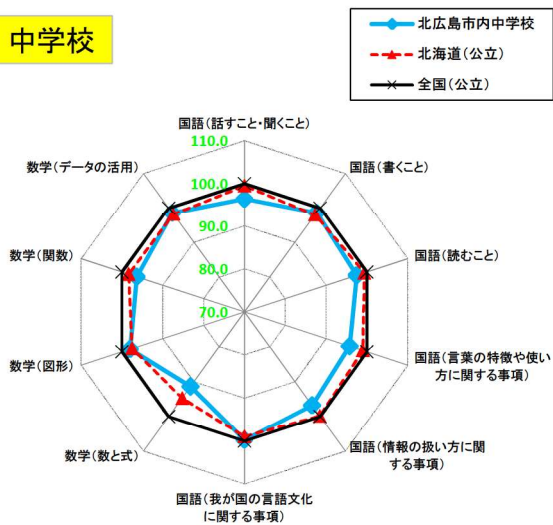
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

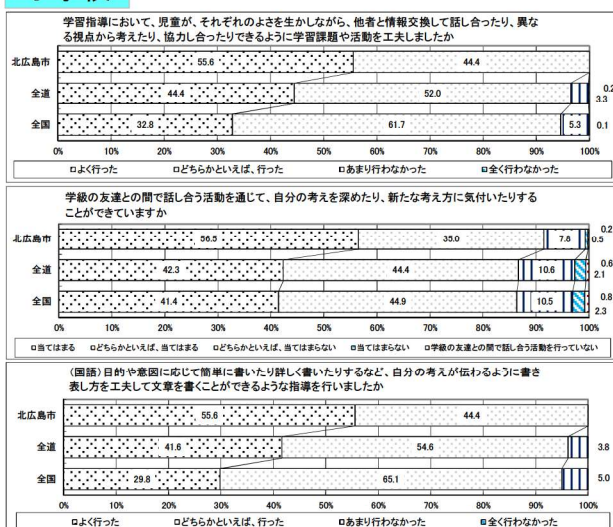


中学校

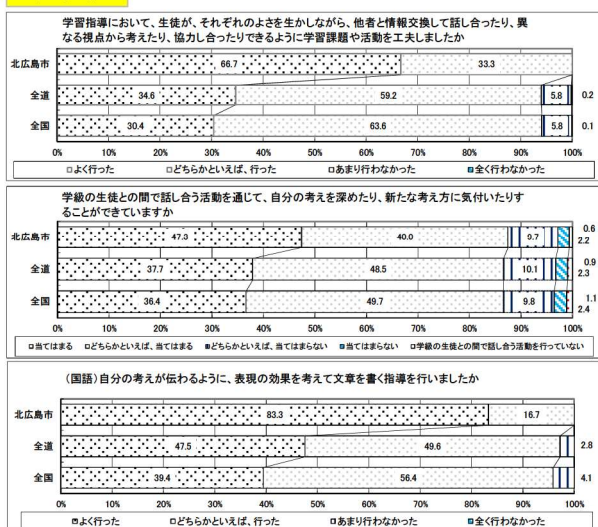


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【北広島市の学力向上策】

- ◎ 対話を重視した授業実践とICTの効果的な活用による子ども主体の学びへの転換
- ◎ 9年間の学びの重点化・系統性を図った指導計画の作成と実践
- ◎ 各中学校区「学びのスタンダード」の定着による学びの土台づくりと生徒指導の機能を活かした授業づくり

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

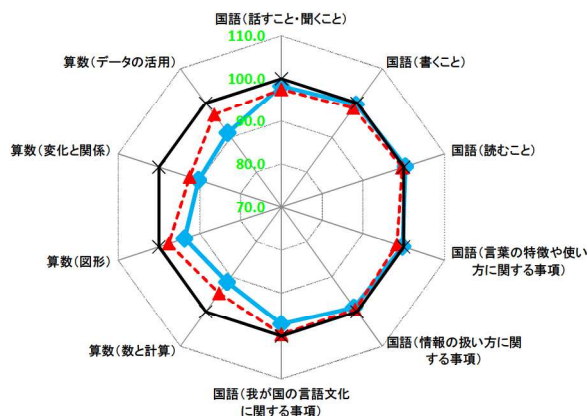
■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:461人）（中学校数:7校、生徒数:405人）

【教科全体の状況】

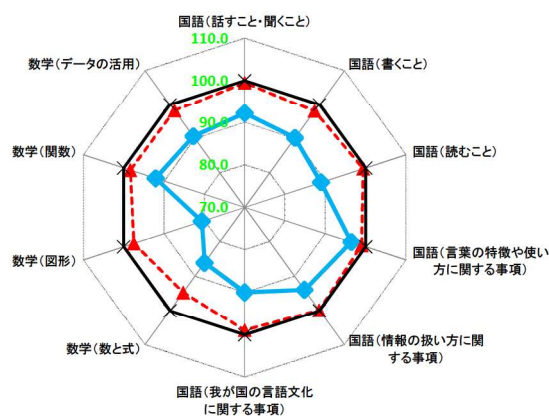
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67.0	53.0
算数・数学	59.0	46.0

小学校

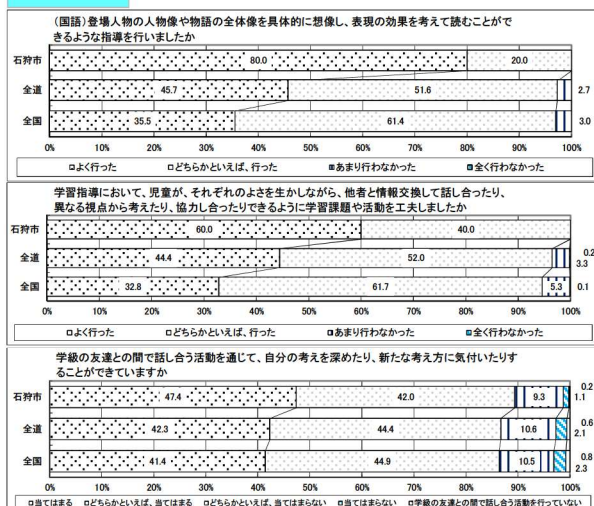


中学校

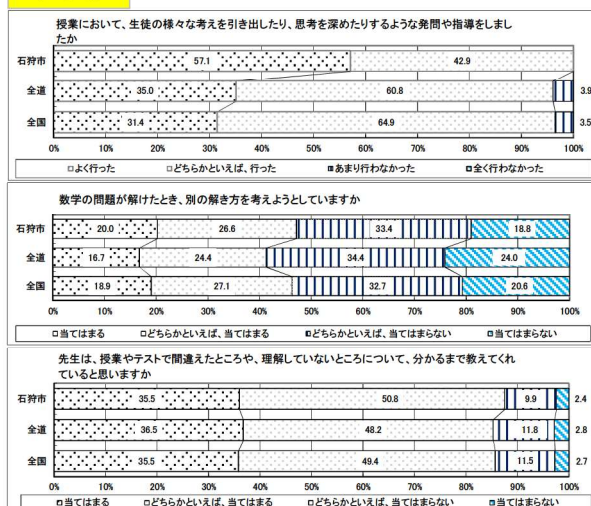


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導を充実させたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

- ◎ 児童生徒が自身の学びや変容を自覚しながら、学びに向かう力を高める単元デザインの工夫
- ◎ ICTを有効に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ◎ 対話による価値交換で学びの質を高める学習活動の工夫

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

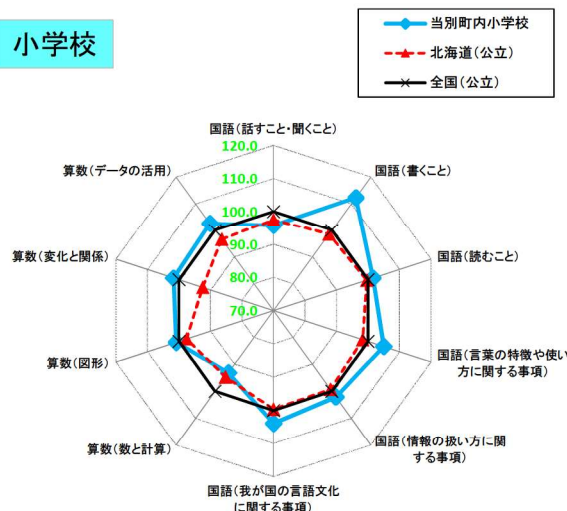
■当別町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：71人）（中学校数：2校、生徒数：87人）

【教科全体の状況】

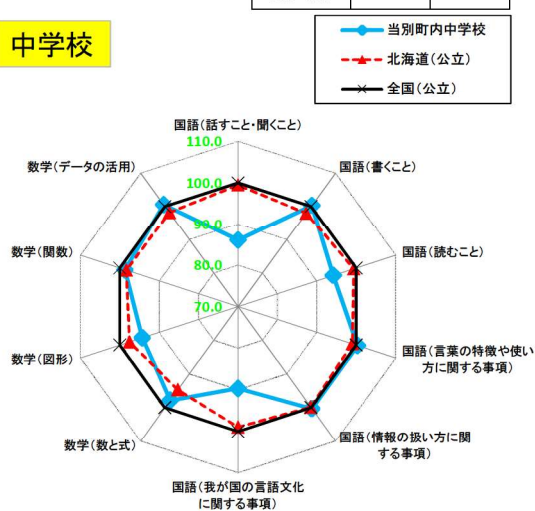
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70.0	55.0
算数・数学	62.0	52.0

小学校

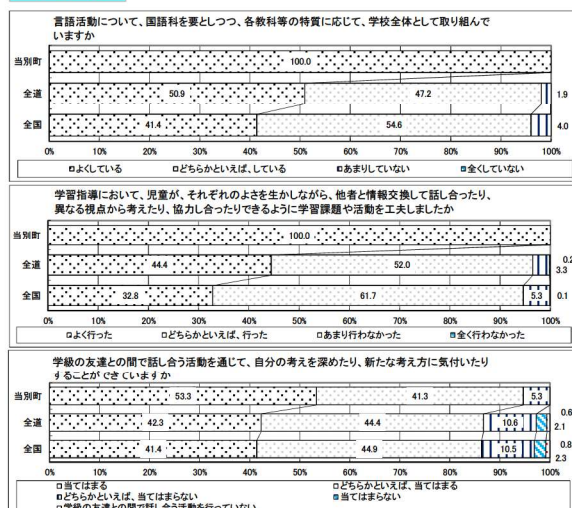


中学校

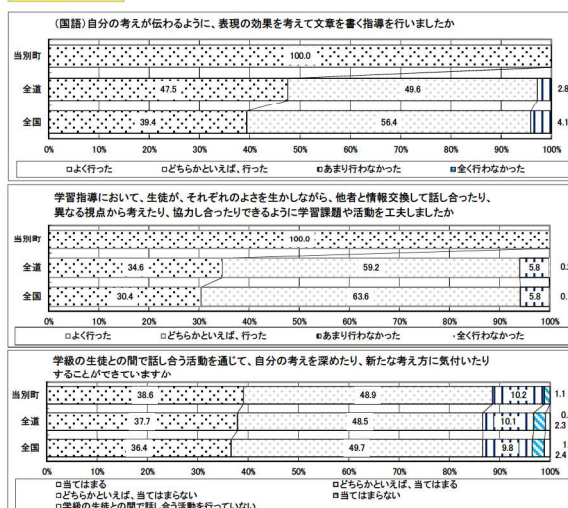


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特徴に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の2領域3事項、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【当別町の学力向上策】

- ◎ 全ての子どもに必要な資質・能力を身に付けさせるための「対話」を重視した授業への転換
- ◎ 個別最適・協働的な学びの実現に向けた1人1台端末を活用した多様な学びの充実（ICT利活用）
- ◎ 町独自の学力向上推進講師や支援員（町独自配置）を活用した「授業改革055！」の実現に向けた学習支援の充実
- ◎ 教職員の資質向上を図る研修会の開催
- ◎ 「AIDリル」「学びのハンドブック」「家庭学習サポートブック」等による家庭学習の支援

【Webページ】

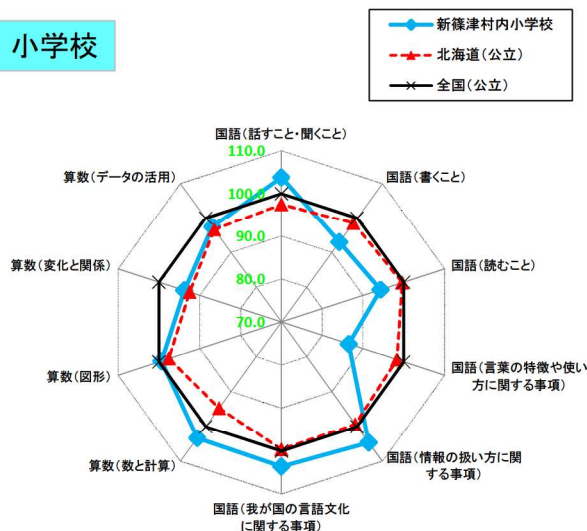


■新篠津村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

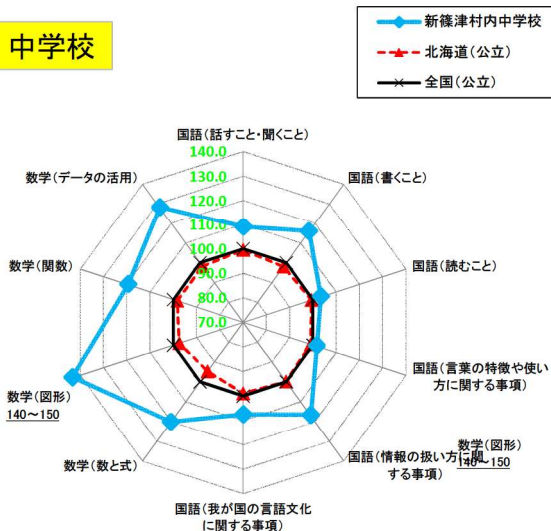
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

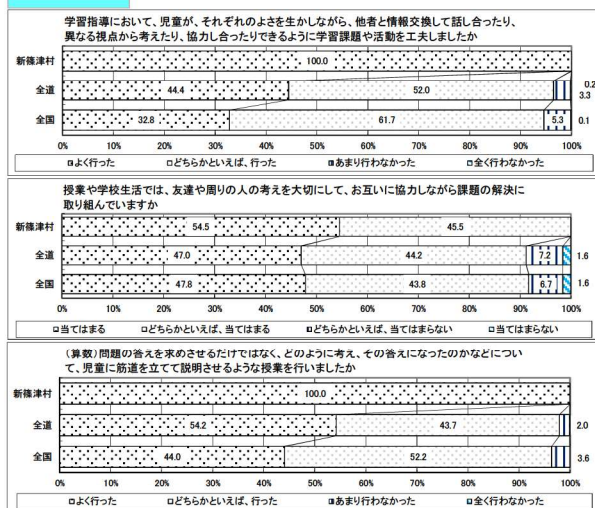


中学校

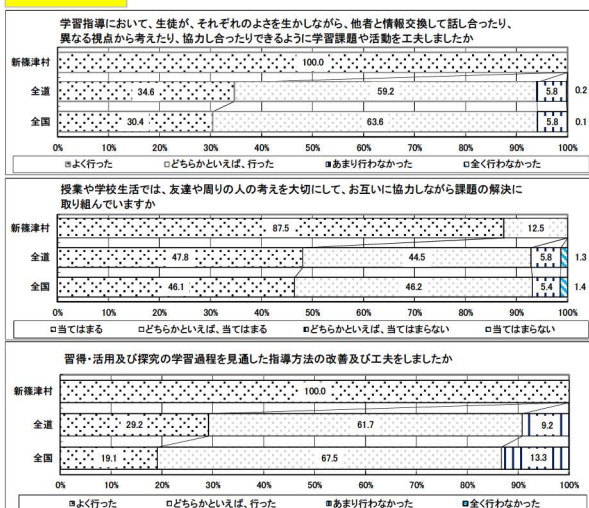


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、国語、数学の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新篠津村の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進・充実に向けた教科担任制や乗り入れ指導の重視
- ◎ ICT教育の推進に向けた学習支援ドリルや新聞の検索・閲覧ができるシステムの導入
- ◎ 小・中学校への支援体制の充実に向けた学習支援員の配置